南アルプス全山縦走報告書

SAC

信州大学山岳会

はじめに

長い冬が終わりここ松本はもうすっかり春である。今となってはあの 28 日間がもう遠い昔のような感じがする。夏場並みの荷物を背負い歩いた鳳凰三山。青天白日の陽射しの中を登った甲斐駒ケ岳。悪天候にやられ、吹雪の中下った間ノ岳。予期せぬ体調不良や、春の嵐を感じさせる寒のもどりなどで動けなかった後半、無念の途中敗退など様々なドラマがあった。いい想い出である。光陰矢のごとし、と言うが、この思い出は時が経っても色褪せさせる事無くとっておきたい大切なものである。

南アルプス全山隊　リーダー　　野川謙介

目次

行動記録　P1～8

個人の反省 P9～15

係から P16,17

行動の記録

2/10

7:06　夜叉神入口着

8:20　夜叉神入口発

10:00　夜叉神峠

12:50　杖立峠

13:40　杖立峠付近T.S

土日でしかも連休中ということもあり、ラッセルが入口からT.Sまであった。荷物が重くやや時間がかかったが、順調であろう。杖立峠は場所がはっきりせず、ややこしい。

2/11

4:30　起床

7:10　出発

8:30　苺平

12:15　薬師岳小屋 TS

13:30　観音岳へ荷物をデポする

14:20　薬師岳小屋 TS 帰着

昨日に引き続き快適な1日。午前中は雲一つ無い快晴。地蔵岳くらいまで行くつもりだったが、風の強いのと荷物が重いので結局観音岳まで荷物を上げるだけとする。

2/12

5:00　起床

6:40　出発

7:10　観音岳

12:10　高嶺

16:10　早川尾根小屋

朝から風が強く稜線では時々ふらつくくらいであったが、昼過ぎから風も弱まり、高嶺を通過するくらいから太陽も出てくる様になった。白鳳峠から早川小屋まで単調なラッセル。

2/13

5:00　起床

6:00　沈殿決定

半ば野川がゴリ押して沈殿にした。荷物が重たく、疲労感があったので大事をとって沈殿とした。

2/14　バレンタインデー

5:00　起床

6:55　出発

11:45　アサヨ峰

14:40　仙水峠

15:00　仙水小屋

アサヨ峰から栗沢山までの稜線が意外とイヤらしい。栗沢山からはＲＦに注意。仙水小屋はとてもいい小屋で、皆で彼女所持組が持っていたチョコを食いあさった。

2/15

5:55　起床

6:50　出発

7:15　仙水峠

11:00　甲斐駒ケ岳

30 分間滞在

13:15　仙水峠

13:35　仙水峠小屋

甲斐駒の登りでフィックスを１Ｐ出したが、１年生がいなければ必要無し。１日中いい天気でとても気持ちのいい１日だった。夜は小屋の毛布で快眠。

2/16

6:08　起床(寝坊!)

7:50　出発

9:45　北沢峠

13:00　北沢峠

仙水から北沢峠までデブリが幾つかあり怖かった。北沢長兵衛小屋からのルートファインディングには注意が必要。北沢峠からは急登をラッセル。

2/17

5:50　起床(またも寝坊)

7:35　出発

10:35　仙丈岳

25分滞在

13:40　苳の平着

またも寝坊。疲れがたまってきたのか、だれてきたのか。前者であることを願う。朝、森林限界を超えた辺りから風が強くなり、疲れもたまって登りは辛い行程となった。仙丈岳の下りは大仙丈岳から危ないところが一ヶ所あったがロープは必要無し。苳の平は気持ちのよいところだった。

2/18

5:05　起床

6:40　出発

11:30　横川岳

12:00　野呂川越

14:40　1750付近T.S

ジャンボさん目出帽子に嫌われる(目出帽子をなくす)。苳の平から横川岳まではRFに注意。ラッセル三昧の1日。

2/19

5:05　起床

6:50　出発

12:00　間ノ岳

13:20　農鳥小屋 TS

森林限界まで雪が深く予想以上に時間がかかった。あとはアイゼン闊歩。テントを立てている途中で、突風が吹きポール破損。皆の頭に冬合宿での出来事が頭をよぎった…。

2/20

4:30　起床

6:20　出発

8:10　農鳥岳

30 分滞在

9:50　農鳥小屋

13:00　北岳山荘

今日は 1 日を通して特に難しいところはなく、天気にも恵まれに荷物も軽く、楽しい 1 日だった。

2/21

5:00　起床

6:40　出発

北岳ピストンに要した時間およそ 2 時間

8:55　北岳山荘

10:55　三峰岳

13:48　熊の平小屋

北岳のピストンは予想以上に易しく、ロープも出なかった。昼前から天気が崩れ、間ノ岳の手前でつかまり散々な目にあう。無事熊の平に着いた時はホッとした。

2/22

5:00　起床

6:50　熊の平小屋

12:30　北荒川管理小屋 TS

異様に暑い 1 日だった。この日東京では 20 度近くを記録したらしい。2800m でも雪が解ける有様だった。樹林帯をひたすらラッセルした。

2/23

4:50　起床

6:30　出発

8:55　塩見岳東峰

15:35　三伏峠小屋

今日の核心であった塩見の下りはやや危なかったがロープを出すには至らなかった。そこからは延々とラッセル。

遂に前半戦終了。なんと実働連続 10 日。他は知らんけれど僕は結構いっぱいいっぱい。しかし疲れも吹き飛ばすこの嬉しさ。明日は沈殿、と前から決めていたが予報では雨の様だ。我々は暫しデポを食らう獣と化した。

2/24

7:00　起床

以後沈殿

外は雨田が僕らは小屋の中で快適快適。皆久しぶりの休日を思い思い楽しんでいた。本を読む者、デポを食らう者、屁をする者、様々だった。

2/25
4:30　起床
6:40　出発
7:45　烏帽子岳
15:30　高山裏小屋
三伏から小河内まで昨日の雨でクラストしていたためアイゼン歩行となる。大日影山から板尾岳まではナイフリッジ上になっており、予想以上に手間取った。

2/26
4:30　起床
以後沈殿
梶原が体調を崩したため大事をとって沈殿とする。たまには晴れの沈殿も良いかな～なんてこのときは考えていた。

2/27
4:30　起床
以後沈殿
今度は横山(勝)と佐藤の調子が悪くなり、またも沈殿。ちょっとあせる。

2/28
4:30　起床
天候が持ちそうも無くまた沈殿
朝の天気予報で、昼から荒れるとのことだったので今日も行けず。あせる。

3/1
4:30　起床
以後沈殿
外は大荒れ。仕方が無いことだが気持ちはあせるばかり。予備日の関係で全ルートのトレースは不可能になる。

3/2

4:30　起床

6:30　出発

14:00　荒川前岳

15:20　中岳避難小屋

朝野川が風気味であったが、もう日程に余裕が無いため出発。荒川のトラバースは意外と簡単であったが、尾根の登りから猛烈にふぶき、大聖寺平はあきらめ中岳避難小屋へ。

3/3

5:00　起床

7:00　出発

11:45　赤石岳

14:55　百間洞山の家

中岳から大聖寺平への下りは数カ所がれた所があったが問題無い。赤石から百間洞へは 2P でついた。

3/4

以降 3/7 まで悪天のため沈殿

3/8

5:00　起床

7:00　出発

8:55　大沢岳

11:35　唐松峠

14:45　大沢小屋

昨晩の天気予報で悪い天気があと 2,3 日続くという事なので、この先は行けない、という事になり大沢岳からのエスケープを使う事になった。大沢岳から聖岳を望み、また来るぞと誓い下山する。

3/9

4:00　大沢小屋

6:15　出発

13:00　しらびそ峠

16:25　森林局のオジさんに車に載せてもらい程野に着く

28日ぶりの下界は何もかもが新鮮だった。飯田駅でローソンに行き久しぶりにみんなでツバッた。もう飯田はかなり温かく、春を感じた。

文責:野川

南アルプス全山縦走28日間においての反省と感想

3年　野川謙介

さて反省となると途中敗退ということもあり、次から次へと多数出てくるが、やはり最大の敗因は3年生の僕がリーダー職という隊の最高指揮官をやったがために、理想としていた上意下達式の指揮系統が機能しなかったこと、そして次に出発前に隊員同士意志疎通が出来ていない、という事を皆うすうす感じつつ結局何もしなかった、ということにあるのではないかと思う。「合宿に限りなく近い個人山行」という極めて曖昧な位置にこの山行を持ってきてしまったがために、面倒くさいこと(それはたいていとても重要なことであった)を極力避けてしまった甘えがあったことは否めず、それが途中敗退という残念な結果として出てきたという感がある。思うに我々の中に長い冬合宿を通じて以心伝心による交流で十分、というような信頼感に似た気持ちがあったのだと思う。しかしそれでも発案者の僕がもっと積極的に皆を巻き込みいい形でのスタートを作り上げるべきであったわけであり、それをせずに出発してしまった僕はリーダーという職において失格であった。普段の短期間での山行ならともかくこのような長期においての活動ではやはり指揮官たるものその組織の長たるべきものがやるべきであると思う。それが僕なりのこの問題に対する結論である。

今回の山行において“もし自分1人で行動していたら、ここは行けたのだろうか”常に自問自答しながら行動していた。今後自分の技量と状況を冷静に比較出来る様に、そして人を引っ張っていく立場になったことで自分の実力はどんなものなのかを見定めたい、という思いからであった。終わってみるとやはりまだまだ学ぶべき技術、つけるべき体力等を取得しきってない、というのが正直な感想であり、意識の問題としても人の後を追いかけていくという域から脱しきれていない、という厳しい結果であった。やはり4年生を頼りにしていたのであろう。人に頼らず、が今後の僕の大きな課題であると思う。

佐藤はとてもよく頑張ったと思う。1年生にしては上出来だ。2年生になると立場も違ってき、色々と大変になるがまたそれなりの喜びも出てくる。

南アルプス報告　　佐藤祐樹

南アルプス全山縦走計画は残念ながら失敗に終わってしまった。失敗を忘却の中に捨てるのではなく次の成功への一歩として何らかの形で実行に移さなければならない。そうしなければ南アルプス縦走は本当に意味それ自体がなくなってしまう。次の成功へのふみ台にしたい。

今回の失敗の原因は何であるだろうか。直接的要因は三伏での食い過ぎ（食あたり？）による沈滞及、高山裏小屋での吹雪による沈滞である。しかし、今考えるとあの沈滞は判断ミスのような気がする。全体の技術力、体力から判断して負荷はかかるものの不可能ではなかった。行動が可能な沈滞だった。

山登りには大きく分けて2つのスタイルがあると最近思う。"楽しむ"ことに重点をおき無理をしない登り方、"目標"に重点をおき負荷をかけてもやり遂げる登り方。今回自分たちが目指したのは後者にほかならない。南アルプス全山縦走という大きな目標を胸に計画をたてたはずである。簡単には終わらない多少の負荷をかけなければ達成するはずはない。そういう意思統一不足が可

南ア山行を終えて

あれから早いもので2ヶ月近く経とうとしている。
南アと聞くと、メンバー全員が、全山失敗という事を頭に思い浮かべるだろう。
何故失敗したのかと
今回の場合、精神面(モチベーション)に依るものもあったし、
計画の不備(ルート、荷物の重量等、真剣に検討する機会が無かった)
も痛感したし、意志の疎通(各自の役割もはっきりしていなかったし、
意見交換も意識していなかった)の問題も大きかった。
天候による判断の是非も問われる所かもしれない(行動可能、不可能の
決定)が、今回は、技術面ではなく、団体行動の難しさを感じた。
リーダーが3年で、4年が4人もいて、上意下達方式が崩れた所
にも帰するかもしれない。
いずれにしても、徐々に、どんどんふんばりがきかなくなっていったのは
情けなかった。自分の甘さを切に感じた。
この反省は、これからの合宿、山行に必ず役に立ってくれると思う。
各自が色々な思いを持っただろう山行である事は、間違いない。
全山ならずとも、2年の佐トーには、冬山の魅力を十分に伝えられ
ただろうし、28日間、冬の南アを6人でさまよった経験を、
忘れることはないだろう。

knock.

途中
V小屋から見えた幻想的な聖
行けなかったのが、すごく
くやまれる。
行きたかったなー。

南アルプス全山縦走の反省と感想松嵜林太郎

今回の全山縦走が結果的に失敗に終わった事は、なんとも後味の悪い事だ。しかしそこから、学ぶ事は参加したメンバーそれぞれ有ると思う。28日間つらい時も楽しい時も 6 人寝食を共にして過ごした日々。これからもさまざまな山に一緒にいく仲間達。これからの活動の中でそれぞれが相手の事を思って何事も話す事ができるようになれば、南アルプス全山縦走を計画して、実行しようとした意義は十分に有ると思う。リーダーの野川はご苦労様でした。反省は書けばいろいろとあるが、3 月総会で皆で話したし、今更つらつら書く事ないのでよしとします。思い出に残ったピークは何といっても千丈岳。伊那から眺める千丈も立派だが、千丈から眺める伊那谷と背後にそびえる中央アルプスは素晴らしかった。次ぎは懲りずに中央アルプス全山縦走かね？

反省・感想

横山勝丘

一言で言うと、今回の山行は失敗である。乱暴な言い方だがそれ以外のなにものでもない。だからといって、今回はつまらなかっただとか何も得るものがなかったとか、そういう事ではない。この28日間は6人でとても密度の濃い時間を過ごしたと思う。それだけに今回の途中敗退は残念であるし、自分の不甲斐なさに腹が立つ。

登山の善し悪しは、成功や失敗で決まるものではない。しかし今回に限っては成功する必要があったように思う。たかが計画と思う事もある。しかしされど計画でもある。野川は夏前から全山を考えていた。それに残った皆も同調した。全山をやるのはそう簡単なことではない。それだけのことをやろうとしているのだからそう簡単に諦めるべきではないし、辛いときでも頑張る必要がある、と思う。今回、自分も含め、6人の気持ちはどうだっただろうか。まさか3年前の真似事をしようとしていたのではあるまい。登山の善し悪しは自分たちがいかに満足できたか、であると思う。そう、成功や失敗で決まるものではないのだ。では、なぜ成功する必要があったのか。その理由は明らかであろう。

今回の途中敗退に関して、その原因は多々ある。それは各々感じていることだろう。自分が感じたことを少し言わせてもらうとすれば、それは経験の浅さである。何だそんなことか、と思わないでほしい。ただ山を登るということに関しての経験の浅さというわけではない。それだったら我々は多くの経験を積んできているはずだ。自分たちがどれだけ考え、判断して山に登っているのか、そして体力的、精神的に厳しくなったときに、いかに頑張れるのか、また、いかにそつなく行動できるのか、という観点に立っての経験の浅さがあったのだと思う。28日間を思い起こしてほしい。行動できたのに行動しなかった、行動できたのに行動できないことが起こった、という場面が何度あっただろうか。その判断は難しい。紙一重でもある。また、いまさらブーブー言っても始まらないかもしれない。しかし最も重要なことではないだろうか。少ないチャンスをものにできる実力をもっと身につけたい。そのためにはもっと山に登る、考えて山に登る。

今回の山行が良い山行だったといえるのは今回の様々な失敗を克服して良い方向へと生かすことができてからである。4年生にとってはあと8ヶ月である。その時間を長いと思うか短いと思うかは勝手であるが、自分のためにも後輩のためにも、もうひと頑張りしてみたい。今回はこれからのことを考えて、あえて失敗という観点から考えてみた。

最後に、28日間の経験は経験として素直に受け止めたい。あっという間に過ぎていった28日間だった。一緒に行った皆に感謝したい。また、先輩方には多くのアドバイスを頂いた。3年前は今回とは比べようも無いほど大変だったに違いない。改めて感謝します。

南アルプス報告　　佐藤祐樹

南アルプス全山縦走計画は残念ながら失敗に終わってしまった。失敗を忘却の中に捨てるのではなく次の成功への一歩として何らかの形で実行に移さなければならない。そうしなければ"南アルプス縦走"は本当に意味それ自体がなくなってしまう。次の成功への踏み台にしたい。

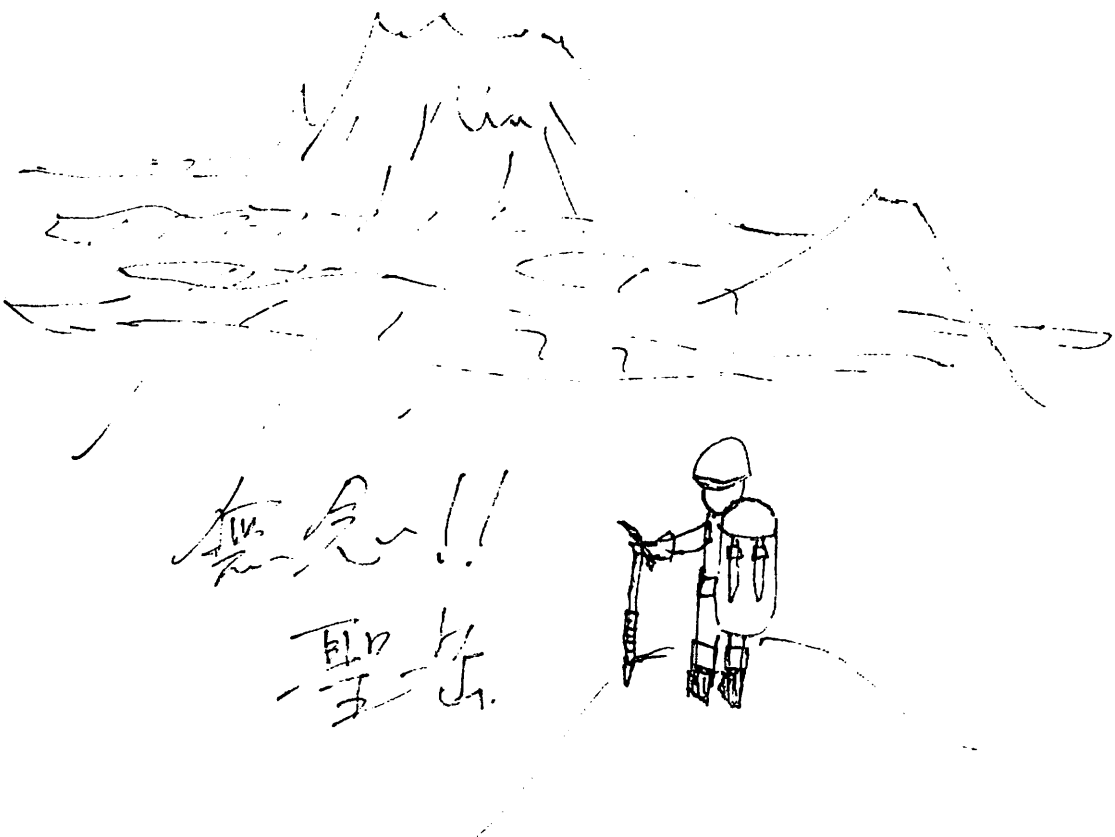
今回の失敗の原因は何であるだろうか。直接的要因は二日目での食い過ぎ（食あたり？）による沈滞及高山裏小屋での吹雪による沈滞である。しかし、今考えるとあの沈滞は判断ミスのような気がする。全体の技術力、体力から判断して負荷はかかるものの不可能ではなかった。行動が可能な沈滞だった。

山登りには大きく分けて2つのスタイルがあると最近思う。"楽しむ"ことに重点をおき無理をしない登り方。"目標"に重点をおき負荷をかけてもやり遂げる登り方。今回自分たちが目指したのは後者にほかならない。南アルプス全山縦走という大きな目標を胸に計画をたてたはずである。簡単には終わらない多少の負荷をかけなければ達成するはずはない。そういう意思統一不足が可

能を不可能とし，惰性と遠慮の山行にしてのだと思う。

山岳会は"楽しむ"だけでなく大きな"目標"を目指して山を登ることを特徴とするサークルである。計画の段階で大きな目標をやりぬけようとする意思を統一し，表面化すべきであったと思う。

しかし南アルプス縦走という一ヶ月は夏、冬合宿にひき続き大切な経験であった。経験を頭の中で処理しないで体で動かしていきたい。



装備反省

横山勝丘

・最大の反省というか、失敗というか、むかつくことというか、それは、テントポールの破損である。冬合宿で折れたので新しく替えたのにまたいとも簡単に折れてしまった。これでエスパース６人テントの信頼はなくなってしまった。しかし、立てるときに無神経に立てた我々にも責任がある。風の強いときはなるべく地面から近い位置で、無理矢理ではなく優しくポールを入れよう。

・白ガスは冬合宿の時よりも減らした(実動９０ｍｌ、予備７０ｍｌ)。しかしそれでも余った。この結果は、もっと減らしてよいということではなく、人数やテントの数、鍋の大きさなどによっても変わってくる。今回はデカ鍋を持っていったが、これが功を奏したのか？また、テント１張でもＭＳＲは２台持っていった。これによる白ガス使用量の減少はどのくらいのものかわからないし、１台増えたことによって重量は結局変わらないかもしれないが、エッセンの時間は大幅に短縮された。これから装備係をやる人は自分なりの最良の方法を見出してほしい。

・ＦＩＸ具は極力減らした。冬合宿の時と併せて考えると、歩きの要素が強い時は最低限のものでまかなえると感じた。もちろん、メンバーの実力にもよる。

南アルプス全山縦走・エッセンの反省

今回は１ヶ月という山行期間であったため、食糧を軽量化することはせずに、質もよく、量も多くというものを目指した。これといって目立った反省点はないが、１ヶ月もの長期となるとメニューのマンネリ化は否めなかった。

また、途中の三伏峠のデポにもう少し生野菜やフルーツなどを上げておけば良かった。

レーションについては多少重かったものの、その質・量ともに満足頂けたのでは？昼飯は煎餅などの塩辛いものをもう少し増やしても良かったと思われる。

梶原　恵

南ア全山の会計渉外の反省松寄林太郎

・収支

収入 50000 円×6 人＝300000 円

支出 277320 円

残高 22570 円

不明金＋110 円

・反省

車の手配が麦谷さんがいないものと思い込み、伊那の深沢さんには迷惑をかけた。

全行程を行かなかったので帰りの交通費が浮いてお金が余った。

各小屋の状況をもっと調べておくべきだった。

エアリアマップは冬でもエスケープの利用の際に役に立つ。

SAC

編集：松本十有志